

—令和元年度サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議—

環境省における沖縄でのサンゴ礁保全の取組

- 1 石西礁湖自然再生協議会における環境省のサンゴ礁保全の取組
- 2 慶良間諸島国立公園における環境省のサンゴ礁保全の取組

環境省沖縄奄美自然環境事務所

自然再生事業とは？

- 自然再生推進法に基づき、過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、行政機関、地域住民、NPO、専門家等の**地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生等を行う**
- 地域における自然環境の特性、自然の復元力等を踏まえて、**科学的知見に基づいて実施**


石西礁湖の自然再生事業

- 平成18年(2006年)2月
石西礁湖自然再生協議会設立
=石西礁湖のサンゴ礁の自然再生を進めていくための組織

個人・団体・有識者・地方公共団体・国の機関など**122委員**が参加
(※令和元年11月現在)

平成19年(2007年)9月
石西礁湖自然再生全体構想 策定


- ◆石西礁湖の保全・再生を効果的に行っていくための方向性を定めた




石西礁湖自然再生事業の目標

【長期目標】(30年)
人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。

【短期目標】(10年)
サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。



<平成29年9月で全体構想策定から10年>
短期目標の評価時期にあたることから、10年間の取組の評価・検証を実施



1970年頃の石西礁湖のサンゴ礁


環境省事業実施計画

自然再生全体構想(協議会)
平成19年(2007年)9月作成


環境省事業実施計画
(環境省那覇自然環境事務所)
平成20年(2008年)6月策定

<自然再生事業>


- ・モニタリング調査
- ・サンゴ群集修復事業
- ・オニヒトデ駆除事業
- ・評価手法の確立
- ・赤土流出防止等陸域対策との連携
- ・利用に関する負荷対策との連携
- ・意識の向上・広報啓発



モニタリング調査



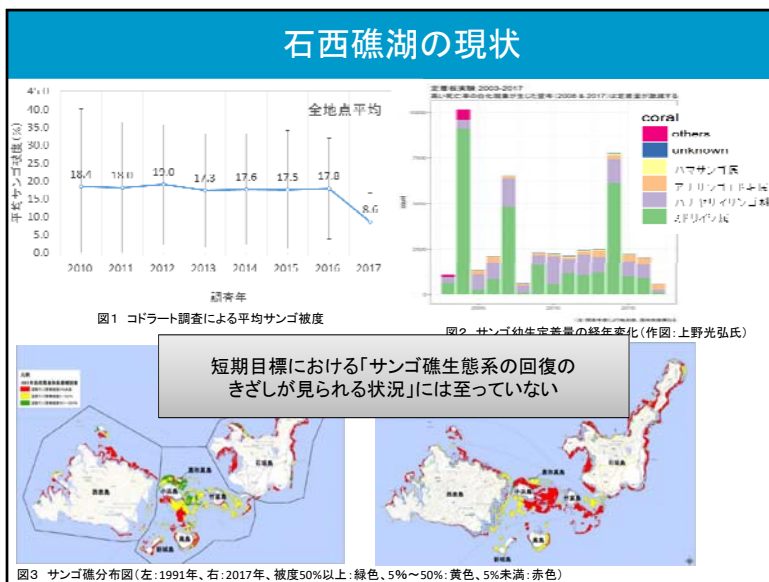
着床具を使った移植



オニヒトデ駆除



サンゴ学習



環境省事業の主な課題と今後の展望

＜サンゴ礁モニタリング調査＞

- サンゴ礁生態系の現状やその変動に加え、サンゴ礁生態系に影響を及ぼす攪乱要因の実態等を把握できていない。
- **水質の悪化(栄養塩類、化学物質等)、赤土等の堆積等**について、関係機関の調査とも連携しながら監視の強化、影響評価の実施
- サンゴ生育に係る環境条件の詳細を把握できていない。
- サンゴが生育する**詳細な環境条件として、水温、流れ、光量等の把握**

＜サンゴ群集修復事業＞

- 有性生殖法を用いた修復事業では、限られた数しか移植できず、石西礁湖全体からすると生態系回復の効果は限定的。大規模白化に対応できず。
- 大規模な白化現象の発生を前提として、**サンゴ群集の回復力を安定させるための幼生の供給源(供給量)を増やすとともに幼生が着床しやすい基盤を整える**ことを主眼におく。

＜陸域負荷対策＞

- サンゴ礁生態系を保全するために重要な赤土流出防止等の陸域負荷対策を促進させる取組が不足。
- **陸域負荷対策が促進されるような体制を構築**するとともに、サンゴ礁モニタリング調査の結果を対策の評価・検証に活用されるよう検討。

慶良間諸島国立公園のサンゴ礁保全の取組

1 サンゴ礁モニタリング調査

- 渡嘉敷島、座間味島、阿嘉島の各島で12地点 合計36地点のスポットチェック調査
- 各島3地点の合計9地点で、定点40mのラインで10mおきに1m×1mのコドラートを設定し、サンゴ被度、出現サンゴ属等を調査

2 サンゴ礁保全のための遊泳区域や自主ルールの設定(地方自治体)

- 座間味島の古座間味ビーチでの遊泳区域設定(平成30年度～)
- 渡嘉敷島の阿波連ビーチで餌付け禁止、ライフジャケット着用、阿嘉島のマジャノハマで干潮時の遊泳禁止等の自主ルールを開始(令和2年度～)

3 フェリー等でのマナー普及

フェリー、高速船内でのマナービデオ上映やさんごゆんたく館での学習会、サンゴ礁の保全再生に係る情報連絡会の開催等の普及啓発活動の実施

4 渡嘉敷村での環境協力税を活用したサンゴの植え付け等

サンゴ被度の経年変化

※ラインランセット調査結果